

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム（2002.12）3巻1号:44～46.

【旭川医科大学カリキュラム改革の現状】基礎医学科目のカリキュラム改訂の要点

渡部剛

## 特集：旭川医科大学カリキュラム改革の現状

# 基礎医学科目のカリキュラム改訂の要点

渡 部 剛\*

### 1. はじめに

本学の医学科では、既に平成11年度入学の学生から、従来の学問区分にとらわれない統合科目を導入した新カリキュラムによる教育が行われてきた。平成14年度入学学生からは、さらにカリキュラムが改訂され、通称「新・新カリキュラム」と呼ばれるプログラムによる教育が始まった。この稿では、カリキュラム改訂に至った経緯を簡単に述べるとともに、新しいカリキュラムにおける基礎医学科目の展開方法・時期について概説する。

### 2. カリキュラムの改訂に至った経緯

この特集の他の稿でも詳しく述べられていることと思うが、今回のカリキュラム改訂に至った経緯について、まず簡単に触れておきたい。

今回のカリキュラム改訂は、一言でいえば、臨床実習前共用試験への対応を目的として行われた。この（広義の）臨床実習前共用試験とは、学生の技能・知識が臨床実習に参加できる水準に達しているかどうかを評価するための試験で、基本的な診察技術が試されるOSCEと医学的知識の有無が試されるCBT（コンピュータを用いた客観式試験；狭義の臨床実習前共用試験）のふたつの柱からなる。将来的には、学生がクリニカルクラークシップ型の臨床実習へ参加するに際して、これらの試験で一定水準以上の成績を修めることが必要条件となる。

この共用試験で要求される医学的知識の水準に関しては、平成13年3月に「医学教育モデル・コア・カリキュラム（以下コアカリと略称）」という具体的な指針が示された。この「コアカリ」で提示された内容を遺漏なくカバーし本学の学生が共用試験や医師国家試

験を受験する際に不利な状況にならないようにケアするというのが、今回のカリキュラム改訂の本来の目的である。このうち、CBTは平成17年度から本格的に施行される予定となっており、逆算すると、平成14年度入学学生から新しいカリキュラムが適用される必要がある。このような背景のもとに、本学では平成13年秋から教育課程編成委員会で議論が重ねられカリキュラム改訂作業が進められた。

### 3. 現行カリキュラムからの変更点

この「コアカリ」の内容のうち、どの部分を基礎医学講座で担当すべきかという点に関してはさまざまな議論のあることと思われるが、今回のカリキュラム改訂では、（社会医学をのぞく）基礎医学講座は、2年後期に展開される「基礎医学IおよびII」、1-2年次で展開される「生命科学」の一部、および2年後期～3年前期で展開される「基礎医学実習」を担当することになった（図1）。これらの科目で「コアカリ」の「B. 医学一般」の内容全般と、3年で展開される「臓器別・系別講義」（「コアカリ」の「C. 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療」に相当し臨床医学講座がコーディネートすることになっている）を理解する上での基礎的な事柄（系統解剖や基礎医学一般）を教えることになっている。これらの講義・実習の展開時期や展開方法に関して、現行のカリキュラムからの変更点をまとめると以下の2点となる。

- (1) **基礎医学科目の大綱化**：従来は個別の学問分野ごとに15時間（1単位）の倍数に固定された形で展開されていた2年後期の基礎医学科目の系統講義を2つの大きな科目にまとめ、その中で各講義の配分・展開時期などに関して弾力的に運用で

\* 旭川医科大学 解剖学第二講座

きるようにした。原案では「コアカリ」の「B. 医学一般」の区分に準じて3つのグループに再編する予定だったが、病理学関係の講義を他の領域の学習を終えた後に展開したいという要望を考慮して、結局、解剖学、生理学、生化学、病理学を「基礎医学I (120時間 (8単位))」に、微生物学、薬理学、寄生虫学を「基礎医学II (75時間 (5単位))」に統合して、2つの大科目とした。この大科目内での講義内容や講義時間の配分については、実際に学生が受講することになる平成15年度までに細部を詰めるべく、目下、編成作業を進めている。

(2) 科目展開時期の再考：内容の上で関連のある講義・実習の展開時期をできるだけ近接させるように、1年から2年前期までの統合科目（旧）総合生命科学、（新）生命科学の展開時期を一部修正した。例えば、これまでのカリキュラムで1年後期に展開されていた骨学や放射線診断の基礎に関する講義・実習は半年後ろにずらして2年前期に展開するように変更し、これらと密接に関連する

解剖学実習（2年後期に展開）と連続するようにした。このことによって、人体について形態学的側面から学ぶ講義・実習が有機的につながり、この分野に関する学生の理解が深まることを期待している。また、上述した「大きな」基礎医学科目の中の各講義の展開時期に関しても、順次、関連のある内容ごとにまとめる方向で調整をはかっていく予定である。

また、「コアカリ」の「A. 基本事項」および「F. 医学・医療と社会」の内容をカバーする目的で、新しく「社会医学基礎」および「社会医学」という科目が1-4年次にわたって展開されるが、このうち3年次で展開される部分「社会医学」は社会医学関連3講座（公衆衛生学講座、衛生学講座、法医学講座）が担当し、社会医学の序論・総論的内容の講義を行うことになっている。さらに、社会医学に関する、より専門性の高い内容に関しては、現行カリキュラムと同様に、上述した3講座による「社会医学」および「社会医学実習」が4年次に展開される。

1週あたりの時間数	1年次					2年次					3年次				
	前期		後期			前期		後期			前期		後期		
	5	1	5	5	15	12	1	3	15	3	7	2	4	15	
1						生命科学VIII 生化学			基礎医学I (B1:個体の構成と機能)	基礎医学I 微生物学実習	基礎医学 微生物学実習				
2						生命科学IX 生理学			(B3:原因と病態) 生化学						
3						生命科学X 免疫学			生理学						
4						生命科学XI 人類遺伝学・発生学			解剖学						
5									病理学						
6															
7															
8															
9															
10						生命科学VII 組織学・病理学	生命科学XI 画像診断・画像解析の原理		基礎医学II (B2:個体の反応)	基礎医学 病理学実習	基礎医学 病理学実習				
11						生命科学実習IV 顕微鏡実習 (組織学・病理学)	生命科学実習 VI 生理学実習		微生物学	基礎医学 薬理学実習	薬理学実習				
12						生命科学実習VII 免疫学実習	生命科学実習 VII 免疫学実習		寄生虫学						
13						生命科学実習VIII 骨学実習、画像診断の基礎			薬理学						
14									基礎医学実習I 肉眼解剖実習						
15									組織学実習 (の一部)						
16									神経解剖実習						
17									画像診断の基礎						
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24									必修選択コース (基礎医学特論)						
25															
26															
27															
28															
29															
30															

図1. 新しいカリキュラム(いわゆる「新・新カリ」)における基礎医学系科目の展開表